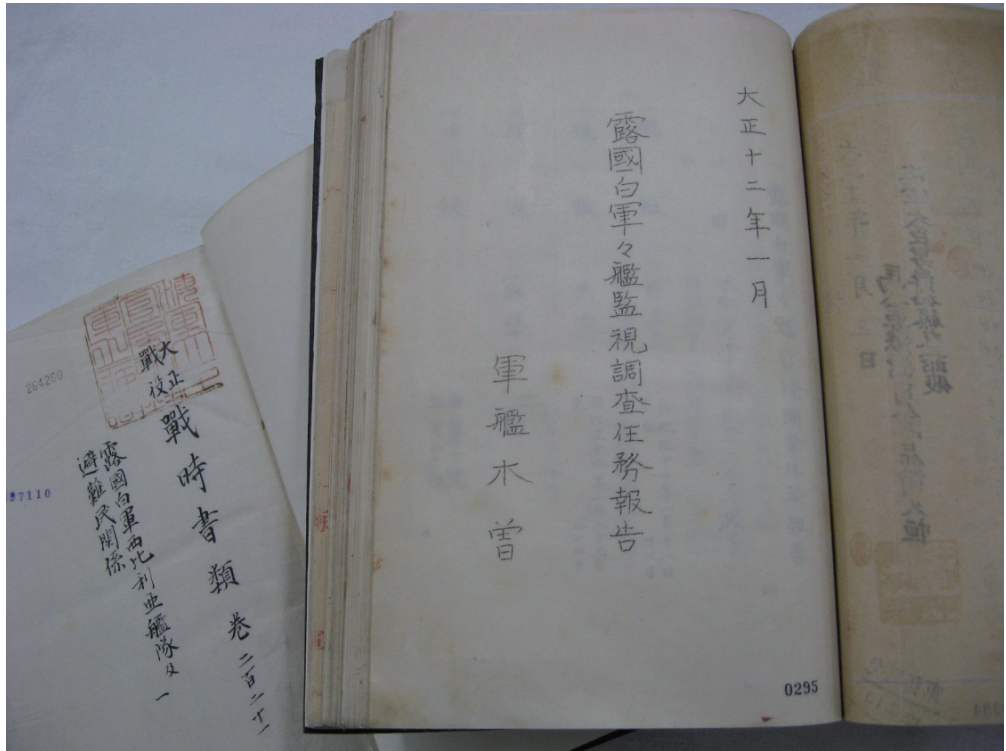




「第九師團西伯利派遣記念写真帖」

大正 10(1921)年 3 月 31 日、シベリア派遣に関する命令を受領した第 9 師団（師団長松浦寛威中將）の各部隊は、石川県の七尾港から次々と出港し、同年 4 月 11 日から 5 月 7 日にかけて浦塩に上陸した。同地において、浦塩派遣軍（第 3 代軍司令官立花小一郎大將）より機関銃、狙撃砲、迫撃砲、山砲、装甲列車等の臨時増加配備を受けた第 9 師団は、第 11 師団とその守備を交代し、大正 11 年 9 月 18 日に全部隊が撤収するまでの約 1 年半、域内の治安や交通の維持にあたった（参謀本部編『西伯利出兵史』）。写真は、日本政府がシベリア撤兵を宣言した大正 11 年 6 月 24 日から約 2 か月後の 8 月 25 日、派遣将兵に頒布するために発行された「第九師團西伯利派遣記念写真帖」である（「戦役・写真-66」、防衛研究所戦史研究センター史料室蔵）。この「写真帖」には、浦塩派遣軍司令官立花大將と軍司令部の写真の他、第 9 師団の七尾港出港から浦塩上陸までの行動や浦塩到着後の諸部隊の展開地域の風景などを写した写真が多数掲載されている。



「露国白軍西比利亞艦隊及避難民関係」一、二

ロシア革命の勃発以降、シベリア地方にひろがった混乱を逃れようと、「白軍」と称される多くの軍人と避難民が同地方から脱出した（ソヴィエト政権に従った勢力は「赤軍」と称された）。ここに掲げた2冊の史料「露国白軍西比利亞艦隊及避難民関係」一及び二は、これら「白軍」のなかで海路に難を逃れようとした軍人と避難民に関する内容である（海軍省・日独戦書・T3-213-670 及び T3-214-671、防衛研究所戦史研究センター史料室蔵）。

上掲史料のうち「露国白軍西比利亞艦隊及避難民関係」二から、大正12(1923)年1月に軍艦（二等巡洋艦）「木曾」がまとめている「露国白軍々艦監視調査任務報告」を特にとりあげ紹介する。「木曾」は、大正8年6月三菱長崎で起工され、9年12月進水し、10年5月竣工した（片桐大自『聯合艦隊軍艦銘伝』）。同艦は台湾方面に派遣され、12年1月17日から同月26日までの間台湾南方沖で、はるばるウラジオストックから避難民とともに脱出してきた4隻のロシア軍艦を監視し調査の上、海軍省に報告を行っている。

「マグニット」、「バタレーヤ」、「ゼリバテール」、「バイカル」（砕氷船）の4隻は、当面マニラに向かい航行していた。これら艦船の指揮官はかつて日本海海戦の経験があり、同海戦後にいったんマニラに逃れたことがあった。